

助成者	箕曲 在弘	活動期間	2018年4月～2020年3月
所属機関	NPO法人APLA	職名	理事

## ラオスのコーヒー栽培地域における農業の多様化促進を通じた生態系保全

【活動場所】 ラオス 南部ポーラヴェーン高原

【事業目的】 ラオス南部のポーラヴェーン高原では、換金作物であるコーヒーへの依存度が次第に高まり、従来一般的であった複合生業は「遅れたもの」と認識されると同時に、土壌の肥沃度が減少するなど環境への影響も出てきている。こうしたリスクを緩和するために農業の多様化を促進することを通して、地域の生態系を保全していくことを目的に実施



### 【活動内容】

- ①隣国のタイで持続可能な農業の状況を学ぶ：ラオスのコーヒー栽培若手農家5名がタイへ訪問研修。1年目はカオデー農園で農業技術実習を行い自給自足地域や直売有機市場を訪問、2年目はマカデミアナッツやアボガド栽培や養豚養鶏の技術を学ぶ。
- ②ラオスコーヒー産地での実践・フォローアップ：カオデー農園の農園長と持続的農業財団の指導者が、タイへ研修に訪れた若手各農家を訪問し、農業の多様化状況についてヒアリングと個別指導を実施した。

### 【活動成果】

協力者であるカオデー農園側の当テーマに対する問題意識が高く、想定以上の積極的な協力を得てスムーズな交流研修が進んだ。但し3年目にコロナが発生した為、活動は3年目の最終年度は中止し2年間の活動となった。ラオスの若手農家はとても真剣にタイでの研修へ取り組み、特にアボカドと養鶏に興味を示した。ラオスでのフォローアップでは、アボガドや新たな取り組みを始めた農家もあるが、各農家の置かれた状況には差があり若者だけで活動を変えていくことが難しい事情があることもわかった。今後はコーヒー組合や農協幹部など、より広い層へ多様化の考え方を共有して広めていくことが課題となる。

